木徳神糧株式会社

第74期 2021年1月1日▶2021年12月31日

株主通信

JPX
東証JASDAQ上場
証券コード
2700

西陣織

八つ橋

おばんざい

京都丹後コシヒカリ

天橋立

日本の特産品
京都府編

詳細は
裏表紙へ！

木徳神糧ってどんな会社？

経営理念

コメビジネスを軸に世界中の消費者にコメとコメ関連食品の素晴らしさを発信し、健康で楽しいライフスタイルの実現をサポートします。

中期経営計画（2020年12月期～2022年12月期）

2020年12月期～2022年12月期の3ヵ年は**「持続的成長を実現するための構造改革期間」**

当社を取り巻く経営環境

- 人口減少・少子高齢化・食の多様化によるコメ消費量の減少
- 働き方改革による物流コスト・人件費の増加
- 生活様式の変化によるニーズの変化

逆境を勝ち抜くための経営戦略

米穀事業(国内)の構造改革
- 仕入構造改革の推進
- コスト削減による競争力強化
- 提案営業実践の強化

新規事業・新商品開発の本格化
- 海外市場におけるチャレンジ
- 連携強化による開発の充実

当期までの取り組み

米穀事業（国内）の構造改革

●生産の効率化とコストの削減

営業部門と連携したアイテムの集約や最新鋭の機器導入による工場内業務の効率化を推進し、旗艦工場である桶川工場の生産効率向上を目指目指しています（一人当たり生産量：一昨年比約30％UP）。また、各産地の協力精米工場への委託精米の推進や消費地に近い同業卸の精米工場の活用等、アイテム毎に適した製造場所を選択することで、配送の効率化とコストの削減を実現し、競争力の強化を図ります。

●環境配慮型工場化への取り組み

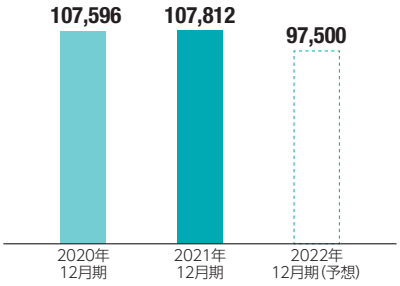
当社では、グループ全体で策定した環境理念・環境方針の他にも、各精米工場にて環境や品質等に関する独自の方針を掲げています。その方針に基づき、食品ロスの低減や資源およびエネルギーの節減等、昨今の社会的ニーズであるSDGsに対応する取り組みを強化しています。

最新鋭の色彩選別機

連結財務ハイライト

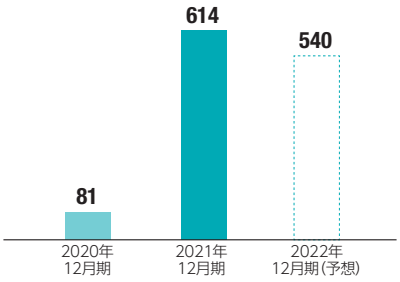
売上高

(単位:百万円)



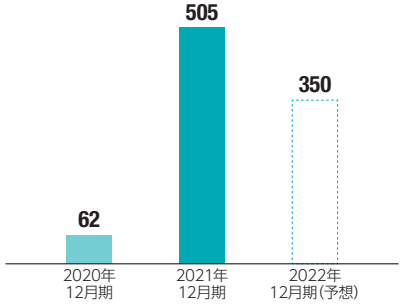
経常利益

(単位:百万円)

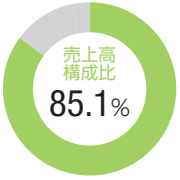


親会社株主に帰属する当期純利益

(単位:百万円)



米穀事業

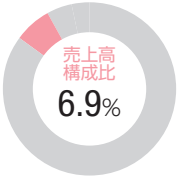


売上高 **91,799百万円**
(前年同期比0.6%減)

営業利益 **874百万円**
(前年同期比204.5%増)

- ミニマム・アクセス米の販売数量が大幅に増加したものの、業務用向けの需要の大幅な減少および卸業者間の玄米販売が低調に推移したことにより微減収。
- 国産米の取引に係る採算の改善への注力、コスト削減の徹底により大幅増益。

飼料事業

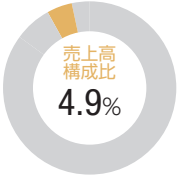


売上高 **7,449百万円**
(前年同期比10.7%増)

営業利益 **391百万円**
(前年同期比5.6%増)

- 穀物価格の世界的高騰により国内飼料価格が値上がりするなか、糟糠類の調達・販売の強化が奏功し増収。
- 国産原料の販売強化とコスト削減に努めたことにより増益。

鶏卵事業

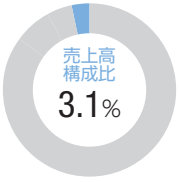


売上高 **5,228百万円**
(前年同期比5.9%増)

営業利益 **34百万円**
(前年同期比65.7%増)

- 鶏卵相場が高い水準で推移するなかで、巣ごもり需要等により量販店向けの家庭用ブランド卵の販売が増加、また消費者ニーズにマッチした鶏卵・鶏肉加工品の販売が好調に推移し増収・増益。

食品事業

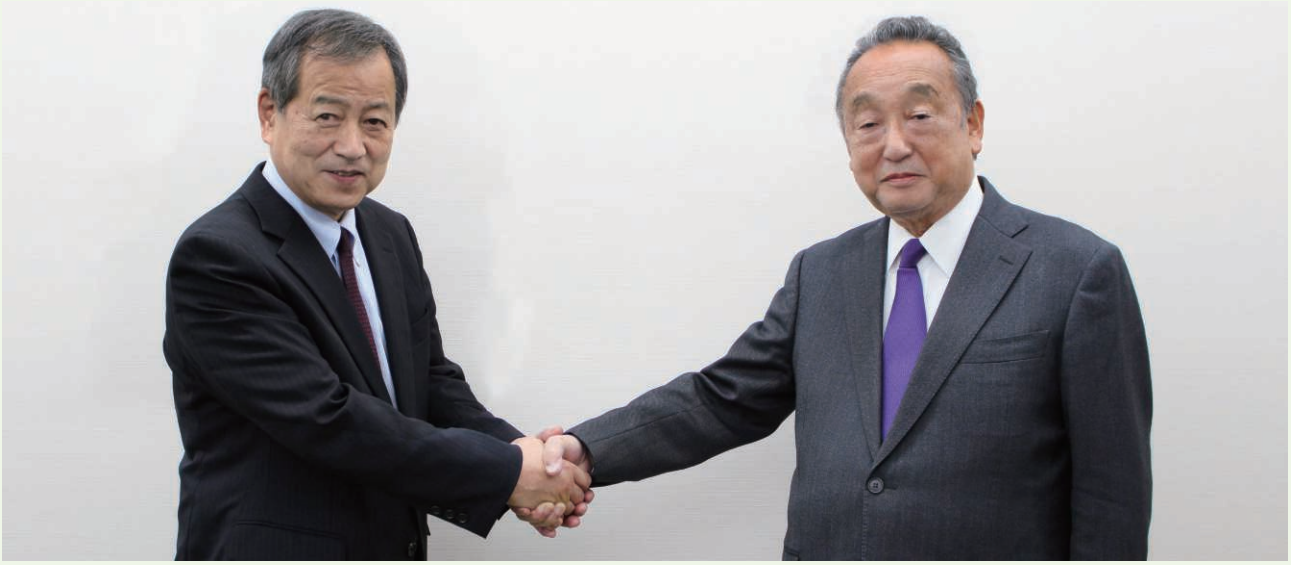


売上高 **3,334百万円**
(前年同期比7.4%減)

営業利益 **32百万円**
(前年同期比41.4%減)

- 加工用原料米の販売数量減少、加えて新型コロナウイルス感染症の影響による病院への営業活動の制限に伴うヘルスケア商品の販売数量減少により減収。
- 和菓子向け米粉販売の採算が悪化したこと等により大幅減益。

社長交代による新体制に。
構造改革を成し遂げ、時代と環境の変化に対応できる基盤を固めます。



代表取締役社長執行役員 竹内　伸夫

代表取締役会長 平山　惇

揺るがない価値をベースに、新しい時代を作り上げて行きます。

平山　2022年3月30日付で代表取締役が会長の私と竹内社長の2名体制になりました。これには役割を分担してガバナンスを強化するとともに、私からのバトンを渡す並走期間に入ったという意味もあります。竹内社長は子会社（旧備前食糧・2012年に合併し現在の中四国支店）の専務取締役も務めた経歴がありますし、鎌田副社長も経験豊富です。ここからは創業140年の上場企業グループ、その経営トップの責任の重さと舵取りについて、改めて経営陣と考えを共有し、先人の方々の思いを繋いでいきます。

竹内　お客さまのニーズに応え、お取引先・株主・従業員・地域社会など、あらゆるステークホルダーとの信頼関係を大切にし、社業の発展を通じて社会に貢献するという木徳神糧の企業価値は変わることはありませんが、私を含む役職員全員で協力し、今後の新しい木徳神糧グループを作り上げて行きたいと思います。

2021年12月期の概況と成長戦略

2021年12月期の業績について

当社グループが属する食品流通業界では、巣ごもり需要によって家庭内消費は増加したものの、外出や出勤を控える生活が常態化し、業務用を中心とした外食向け需要が縮小しています。需要減退の状況下で令和2～3年産米が豊作となったことで供給過剰となり、米穀の販売単価が下落し、厳しい需給環境が続いた年でしたが、ミニマム・アクセス米の販売数量の大幅な増加や、飼料事業および鶏卵事業が好調に推移したことで、売上高は1,078億12百万円（前年同期比0.2％増）となりました。損益面では、米穀事業において精米工場の効率化による製造コストの圧縮と、積極的な提案営業によって国産米の取引に係る採算改善が図れたことで、営業利益は5億26百万円（前年同期は42百万円の営業損失）となりました。また、経常利益と親会社株主に帰属する当期純利益は、2021年8月に発表した業績予想の修正数値を上回り、それぞれ6億14百万円（前年同期比649.5％増）、5億5百万円（前年同期比707.3％増）となり、前年と比較し大きく利益の改善ができました。

米穀事業の取り組みについて

国内の一人あたりの一年間の米消費量は1962年の118kgをピークに今や半分以下の50kg台に減少し、さらにコロナ禍にあって人々の消費行動が大きく変化しています。この状況、この時代に合わせた取り組みが必須であり、当社は2020年から“米穀事業（国内）の構造改革”と“新規事業・新商品開発の本格化”を柱とする3カ年の中期経営計画を進めてきました。

“米穀事業（国内）の構造改革”では仕入、生産、営業の3部門の構造改革によってコストダウンと

収益構造の再構築を進めています。自社精米工場では、生産体制の効率化によるコストダウンを図るために、全工場を対象にした機能の選択と集中を推進しています。旗艦工場である桶川工場を中心に、最新鋭の機器を導入することで省人化・自動化を推進し、一人当たりの生産量の増加を目指しています。また、自社精米工場の改革を進める一方で、協力関係にある精米工場への委託精米の推進も同時に進めており、自社工場での精米と委託精米、双方のコストのバランスを考え、アイテム毎に最適な場所で製造するようにしています。委託先はJA全農系統の精米工場や株式会社神明など、資本関係のある提携先であり、自社精米工場の製品と同水準の品質を維持するために品質管理体制を強化するなど、木徳神糧ブランドとしての品質確保に努めています。現在、米穀卸業界を見渡しても稼働率が高い精米工場はほとんど無いのが実情です。効率的に外部への精米委託を行うことは、当社にとってはコスト削減、業界全体としては精米工場の有効活用、お客さまにとっては美味しい産地直送米の購入機会を広げるという「三方よし」の仕組みと考えており、今後も広げてまいります。

社会的な課題やニーズに対応した取り組みについて

米たんぱく質の病気予防に関する共同研究や、糠などの精米工場での副産物を活用した商品開発にも取り組んでいます。単なる精米商品では他社との価格競争が避けられず、利幅の縮小が懸念されるため、コストの削減に加えて付加価値のある商品の開発が一層必要です。また、これだけ社会的なニーズが高まっているにも関わらず、米穀業界は包装資材等に多くのプラスチックを使用しており、他の業界に後れを取っていると感じています。今後のビジネスはSDGsの考えと切り離すことはできません。当社の商品を「環境に配慮した商品」としてお客さまに選んでいただくため、今までプラスチックだけで作られていた米袋から、原材料の一部に米由来のプラスチックや紙を使用した米袋

に切り替える等の減プラスチックを推進します。また、調理時の水の使用量が削減できる無洗米についても、手軽さに加えて環境を考慮した商品としてアピールしていく必要があると考えています。

巨大な市場である中国など、海外事業の状況について

連結子会社である木徳（大連）貿易有限公司は、中国最大の食品会社である中糧集団と協力して拡販を進めてきました。販売地域を東北三省（遼寧省・吉林省・黒竜江省）から四川省、上海へと着実に広げ、中国地元企業との取引も拡大しつつあります。また、中国は世界有数の食糧輸入国として、年間600万トン台のコメを輸入しており、大きなビジネスチャンスと捉えています。中糧集団との関係に加え、当社はミニマム・アクセス米の取引で年間2～3万トンを中国から輸入しており、チャンスを活かせる勝算は十分あると考えています。日本産米はもちろん、ベトナムの現地法人アンジメックス・キトク有限会社のジャポニカ米や香り米等の様々な商品を、巨大市場である中国市場へ販売してまいります。

ステークホルダーへのメッセージ

当社は東京証券取引所の2022年4月からの市場区分の見直しにあたり、「スタンダード市場」を選択いたしました。これまでのJASDAQ市場から新たにスタンダード市場へ移行することによって、当社のビジネスが大きく変わることはありません。大手米穀卸として、主食のコメを消費者の皆様に安定的に供給することが社会的使命であることを認識し、業界の流れに身を任せるのではなく、当社が自ら考え、決断した方向に信念を曲げずに進んでいくことが大切だと考えています。引き続き、株主の皆さまに安心して当社株式を保有いただけるよう企業の発展に尽くしてまいります。株主の皆さまにおかれましては、末永くご支援いただけますようお願い申し上げます。

鎌田（かまた）　慶彦（よしひこ）

営業本部副本部長
米穀事業本部西日本営業部門統括 兼 中国事業室管掌

取締役副社長執行役員（2022年3月30日就任）

Q 今後の抱負と主要担当部門の状況について教えてください。

A 取締役副社長に就任し、身の引き締まる思いです。今まで以上にグループ全体のこと、そして社会のことを考えて持続的な成長に取り組んで行く所存です。

業務執行では西日本の支店工場の運営、中国の大連市にある木徳（大連）貿易有限公司の監督、そして営業本部の副本部長として全社の営業という、かなり広範囲を担当しています。

西日本も中国も非常に活気があり、新しいアイデアの実現に取り組んでいます。本社と各拠点の業務分担はそれぞれありますが、今後はそういった領域や境界を無くした活動が重要だと考えています。WEBが発達した現在、働き方も役割も変化しました。場所や部署に関わらない横断的なメンバーでプロジェクトを進めることで、誰でも中心的な役割を担うことができ、新たな気付きを得られ、成果と成長に繋がっていきます。例えば、米袋の素材に紙を使って環境負荷を低減した商品等を支店が中心となって開発しましたが、今後のモデルケースになったと思います。さらに新たな素材の包装資材の開発をはじめ、SDGsの取り組みもボーダーレスの考えで臨んで行きます。

中国事業を管掌していながらもこの2年間中国に行けず、非常に歯痒い思いをしていますが、現地では積極的な営業活動を続けてくれています。ICTの活用という点では中国は日本に比べ格段に進んでいるものの、生産・物流・保管等のインフラは一昔前の日本を見ている様で、現代日本式の管理が必要とされるケースも多く、チャンスと捉えられます。中国市場は消費の面でも大きな可能性をもっていますので、お米の取引はもちろんのこと、関連ビジネスに領域を広げて行きたいと思います。

一日も早くコロナ禍が終息し、自由に活動できるようになることを祈るとともに、各拠点で頑張ってくれている従業員、そしてお取引先の皆さまと直接顔を合わせてお話ができることを楽しみにしています。

与謝野町からほど近い天橋立にて

● 会社概要

商　　号	木徳神糧株式会社
事業内容	米穀事業、飼料事業、海外事業、コメ加工食品事業
本店所在地	〒104-0061 東京都中央区銀座7-2-22
本社所在地	〒101-0052　東京都千代田区神田小川町2-8 木徳神糧小川町ビル TEL：03-3233-5121(代表) FAX：03-3233-5131
資本金	5億2,950万円
従業員数	271名(臨時雇用者を除く)
ホームページ	https://www.kitoku-shinryo.co.jp/

● 株式情報

(1) 発行可能株式総数　6,000,000株
(2) 発行済株式の総数　1,706,000株
(3) 株主数　1,907名
(4) 大株主

株主名	所有株式数	持株比率
木村　良	108千株	6.68%
濱田精麦株式会社	82	5.08
株式会社神明ホールディングス	80	4.93
大和産業株式会社	70	4.32
株式会社三菱UFJ銀行	60	3.70
全国農業協同組合連合会	60	3.70
木徳神糧従業員持株会	43	2.69
株式会社三井住友銀行	37	2.29
農林中央金庫	37	2.29
ヤマエ久野株式会社	30	1.88

(注) 1. 持株数は、千株未満を切り捨てて表示しております。
2. 持株比率は、自己株式(85,663株)を控除して計算し、小数点第3位を切り捨てて表示しております。

● 役員（2022年3月30日現在）

取締役	代表取締役会長	平山　惇
	代表取締役社長執行役員	竹内　伸夫
	取締役副社長執行役員	鎌田　慶彦
	取締役常務執行役員	稲垣　英樹
	取締役常務執行役員	石田　俊幸
	取締役常務執行役員	岩苔　永人
	取締役執行役員	山田　智基
	取締役執行役員	管　益成
	取締役相談役	木村　良
	取締役(社外)	秋岡　栄子
執行役員	上席執行役員	石森　好宏
	上席執行役員	金子　泰彦
	執行役員	家辺　義之
	執行役員	郡司　和久
	執行役員	中田　基春
	執行役員	今野　稔
	執行役員	鈴木　敬夫
	執行役員	内田　英一
	執行役員	鈴木　平
監査役	監査役(常勤)	谷本　和則
	監査役(社外)	杉野　翔子
	監査役(社外)	鈴木　昌治

株主メモ

事業年度	1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎年3月に開催いたします。
基準日	定時株主総会については12月31日、その他必要があるときはあらかじめ公告する一定の日
配当金受領株主確定日	12月31日および中間配当金の支払を行うときは6月30日
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社　証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 電話 0120-232-711（通話料無料） 郵送先　〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社　証券代行部
上場証券取引所	株式会社東京証券取引所
公告方法	電子公告（ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。）

株主優待

100株以上ご所有の株主の皆さまに株主優待品を贈呈いたしております。

6月末現在の株主様

200株以上400株未満	▶ 2,000円相当の米穀製品
400株以上	▶ 4,000円相当の米穀製品等※

※ うち2,000円相当は「切り餅」を12月中頃までに贈呈いたします。

12月末現在の株主様

100株以上200株未満	▶ 2,000円相当の米穀製品
200株以上	▶ 3,000円相当の米穀製品等

ポイント1

年2回の贈呈

12月末現在の株主の皆さま
▶3月頃発送

6月末現在の株主の皆さま
▶10月頃発送

ポイント2

米穀商品をお届けします。

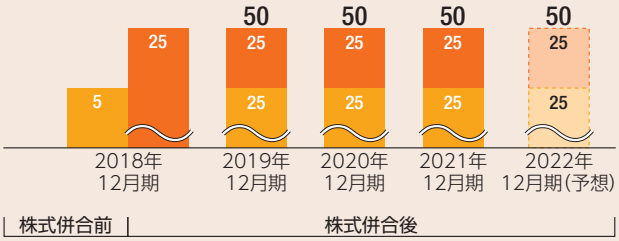
＊ 優待内容や商品デザインは、変更する場合があります。

備蓄向け商品もご用意しています。
商品の詳細は株主優待に同封される案内をご覧ください。

配当金

当社は株主様に対する利益還元を重視しており、安定的な配当の継続を業績に応じて維持することを基本方針としております。その実現のためには盤石な経営基盤の確保が重要であり、株主様への利益還元と同時に内部留保の一層の充実を図りつつこれに取り組んでまいります。

■1株当たり配当金の推移　　単位：円



株主アンケートにご協力ください

株主の皆さまのお声から今後の活動に反映させていただくため、アンケートを実施しております。同封のアンケートハガキにご記入の上、最寄のポストへご投函ください。何卒ご協力をお願い申し上げます。

特 集 環境に配慮した取り組みを強化

世界的に気候変動への問題意識が高まるなか、当社は「お米をはじめとした自然の恵みを取扱う企業」として、環境負荷の低減や食品ロスの削減に取り組み、社会へ貢献できる持続可能なビジネスを目指しています。

当社としての環境問題への対応方針・考え方を、新たに環境理念・環境方針として策定しました。今後は、これらの考え方に沿って活動を進めてまいります。

環境理念

木徳神糧グループは、お米をはじめとした自然の恵みを取扱う企業として、私たちの事業が豊かな自然環境の上に成り立っていることを認識し、自然に感謝するとともに、企業活動が環境に与える影響を考え、事業と環境の持続的な調和を目指します。

環境方針

1.精米加工をはじめとする全ての企業活動に係る資源およびエネルギーを節減します。
2.取扱う商品における、原料の調達からお客さまが消費するまでの過程で発生する廃棄物および食品ロスを低減します。
3.環境への負荷が少ない包装資材や設備、再生可能エネルギーの使用に努めます。
4.全ての従業員への周知徹底と環境意識向上に向けた教育研修を行います。
5.環境に関する法令等を遵守します。
6.当該環境理念および環境方針を会社ホームページにて開示します。

SDGsへの取り組み

京都与謝野町と農業振興に向けた協働の活動を推進

2021年12月14日に、自然循環農業を推進する京都府与謝郡与謝野町と「環境を意識した農業振興に関する協定」を締結しました。今後は与謝野町と協力し、生産地と消費地を繋ぐ交流支援を行うほか、社会へ貢献できるビジネスの構築に努めてまいります。

与謝野町で行われた締結式の様子
左：山添藤真町長　右：鎌田慶彦副社長

減プラ包装商品の取り扱いを強化

従来の包装資材よりもプラスチックの使用量を削減し、環境負荷を低減したエコ包装商品の拡充を進めています。また、米由来のプラスチックである『こめプラ』を利用した新たな包装資材の開発も進めており、プラスチックごみによる海洋汚染問題の解決の一助となれるよう努めています。

総重量の51%以上が紙でできた減プラ包装商品

長鮮度米の拡販と精米時期表示への移行による計画生産を強化

窒素充填と脱酸素剤によっておコメの鮮度を長持ちさせる、長鮮度米の更なる拡充・拡販および、従来の「精米年月日」の表示から「精米時期（上旬／中旬／下旬）」へと変更することで、計画的な生産・納品を実現し、食品ロスの削減に取り組んでいます。

精米時期表示の例

ホームページのご案内

より多くの方々に当社をご理解いただけるよう、おすすめ情報やIR情報の充実を図っております。また、各種SNSやオンラインショップも展開しておりますので、ぜひ一度ご覧ください。

コーポレートサイト

スマートフォンにも対応！

https://www.kitoku-shinryo.co.jp/

オンラインショップＫＯＭＥＴＳ

オンラインショップＫＯＭＥＴＳでは、幅広い種類のお米やお米に関連する商品を取り揃えています。期間限定のお得なキャンペーンも実施していますので、是非一度ご覧ください。

https://komets.jp/

日本の特産品（表紙から）

環境を意識した新たな農業のカタチをともに探すため、2021年12月に当社と京都府与謝郡与謝野町は提携を開始しました。今回は、自然と歴史が息づく京都府の名所と特産品をご紹介します。

1 天橋立

与謝野町からほど近い宮津湾にある天橋立は、日本三景のうちの一つです。全長約3.6kmの砂州に松林が生い茂る珍しい地形で、約6,000年もの歳月をかけて自然がつくりだした神秘的な光景を楽しむことができます。

2 京都丹後コシヒカリ

京都丹後コシヒカリは、2020年に与謝野町の生産法人の京都祐喜株式会社と共同開発した環境を意識した商品です。お米の栽培には環境に優しい有機質肥料を使用しており、米袋には総重量の51％以上が紙でできた素材を使用しています。

3 おばんざい

おばんざいとは、京都の一般家庭で作られる日常的なお惣菜のことを指します。旬の京野菜などを使用し、なるべく素材を無駄にしない、シンプルな調理法と味付けで、季節の味を楽しむおかずです。

4 八つ橋

言わずと知れた京都土産の定番である八つ橋。米粉・砂糖・ニッキなどを混ぜて蒸した生地を薄く延ばして焼いた「八つ橋」と、焼かずに切り中に粒あんなどを包んだ「生八つ橋」があります。

5 西陣織

西陣織は、京都(西陣)で生産される先染の紋織物です。始まりは5世紀までさかのぼり、宮廷の織物作りが発祥とされています。今では、約300の西陣織業者が伝統を受け継ぎ、世界に魅力を発信し続けています。

木徳神糧株式会社
〒101-0052　東京都千代田区神田小川町2-8　木徳神糧小川町ビル
TEL：03-3233-5121(代表)
FAX：03-3233-5131

VEGETABLE OIL INK
環境に配慮した植物油インキを使用しています。